新年号

ゆうあい報 おだぴたる

特定医療法人
祐愛会織田病院 ODA REGIONAL MEDICAL CENTER

発行者　祐愛会織田病院企画室
責任者　織田　正道　＜院内報＞

夢と希望を抱き、新たな未来に向けてのスタートの年に！

特定医療法人　祐愛会理事長
織田正道

一．病院機能評価で全国一位に！

現在地に病院を移転してきてから百年の節目を迎えた二〇一〇年、幸先の良いスタートとなりました。

一月十日の日本経済新聞に掲載された日本医療機能評価機構の特集記事で、高評価（一〇〇点換算で七十五点以上の病院）だった病院が公表されました。受審病院二五七〇病院の中で、当院は七九．八の最高得点で全国一位であることが分かりました。この地方の小さな病院の取り組みが、高い評価を得ることができたのは、病院を支える皆さんの日々努力の積み重ねによるものだと思います。

このことは、まさに吉田松陰が主宰した松下村塾の教育理念『華夷弁別』の教えそのものです。この意味するところは、「どのような地方にあっても、そこが世界の中心と思って、腰を据えて努力すれば、必ず世の中に有用なものを発信し、有用な人を輩出させることができる」（百周年記念誌で西山雅則院長談）との教えです。

我々はこれからも更に二十一世紀のモデルとなり、全国に発信できる開かれた病院を目指して進んでいこうと思います。

二．未来構想プロジェクトチームの発足

さて、加速度的に高齢化が進む時代にあって、良質で継続的な医療・介護が保障され、人々が安心して健やかな生活が送れる、そのように豊な超高齢・成熟社会の構築が望まれます。これからは、医療・介護に関連するイノベーションが次々と起こるものと思われます。我々はどのような時代変化が起こっても、組織として柔軟に対応できるように、「未来構想プロジェクトチーム」を立上げたいと思います。現在の延長線上ではなく、これまでにない新たな発想で五年後、十年後の「地域医療」や「当法人の役割」などをテーマに議論を進めていきたいと考えます。

三．Kapiolani Medical Center（米国ハワイ州）と国際姉妹病院へ

これまで当法人は豪州のHammond Care GroupとCPAITの共同開発などを行ってきました。そして本年四月より、さらに米国ハワイ州のKapiolani Medical Centerと国際姉妹病院の提携をすることになりました。今後、医療マネジメント専門家の交換と研修プログラムを通じ、双方の利益となる分野を追及していく予定です。詳しくは次号にて報告いたします。

それでは二〇一〇年における法人方針並びに各分野の目標を示します。

二〇一〇年法人方針

「超高齢社会を迎えた今、地域の人々が安心して健やかな生活が送れるように保健・医療・介護・福祉分野がシームレスにつながる総合ヘルスケアシステムの構築を目指します！」

◎保健・予防分野

「地域の人々の健康を守るため、生活習慣病の予防・改善に継続的に取り組みます」

一）人間ドック、専門ドック（脳・乳腺ドック）、二次検診、特定健診・特定保健指導に積極的に取り組み、ブランド化を図る
・市民向けの公開講座など、地域への浸透を図る

二）ヘルスアップ事業にも力を入れ、ウォーキング教室、栄養教室の継続を図る

◎医療分野

「地域に安心と信頼を得る急性期病院として、更なる医療の質の向上と、効率化を目指します」

一）地域ニーズにフィットした、地域に選ばれる病院づくり
①急性期機能の充実
・医師の確保・増員
・救急患者受入れ体制充実（救急隊との連携強化）
・クリニカルパス六〇％利用
・亜急性期病床の再検討
②医療連携の強化ならびに介護分野との連携推進
・地域医療機関への積極的な情報発信、新規入院患者一〇％増
・介護保険サービス、訪問看護ステーションとのシームレスな連携
・医療と介護の基本情報を電子化し、一元化と共有化を推進

二）医療の質向上を目指して
・TQM（Total Quality Management）推進

◎介護・福祉分野

「脱施設化に向けて、地域密着サービスの充実を図ると共に、認知症ケアの向上に努めます」

一）地域に選ばれる介護サービスに向けて
①医療とのシームレスな連携推進
・医療と介護の基本情報を電子化し、一元化と共有化を推進
・訪問看護ステーションの病院内開設
②個別性を重視した通所サービスの充実に努めるとともに、介護予防の更なる推進
③介護スタッフの能力向上に向けて、「認知症ケア」の教育研修強化

二）社会福祉法人設立・小規模多機能開設時の順調な運営
・スタッフの教育研修の徹底
・上期（～九月）までに利用者二十五名に

◎各分野共通目標

一）スタッフに選ばれる職場づくり
①医師の事務作業軽減のため、ドクタークラークの増員と教育
②多様な勤務形態でワークライフバランスの推進
・短時間労働正職員制度の適応拡大など
③子育て支援・介護支援の充実
④業務の効率化を図り、時間外勤務の短縮
⑤人材育成に向けた人事制度の基本的見直し
⑥グローバルナース・ケアワーカーの育成と活用

二）セイフティーマネジメント（医療安全、転倒転落防止、院内感染防止）の更なる向上

三）各事業所の安定した運営
・重点項目の目標値の達成と評価

四）Kapiolani Medical Center（ハワイ）と国際姉妹病院へ
・専門家の交換と研修プログラムを通じ双方の利益となる分野を追及

五）未来構想プロジェクトチームの発足

以上、これからも地域のニーズにあった、地に足の着いた運営を行い、着実に前進していきます。

ゆうあいビレッジの取り組みと今後の展望

ケアコートゆうあい施設長
千々岩親幸

昨年は介護報酬の改定、介護の人材不足の問題等介護・福祉に関する話題も新聞などで大きく取り上げられました。また、マスコミなどの調査から全国の介護施設の新設が計画の半分しか達成できていないことが判明し厚労省は急遽計画の再検討を行い、施設建設に関する交付金等の予算の計上をしております。このように、昨年は数年後の高齢者の急増を目前に国、地方自治体ともに介護に関するハードウェア、ソフトウェアの充実をはかり始めたようです。私どもの鹿島市も杵藤地区広域市町村での施設整備計画が立てられており、制度改正後の平成十八年からは第三期事業計画として介護予防給付、地域密着型サービスの充実が行われてきました。しかし、この地域でも全国同様その計画の半分も達成できていない状況でした。

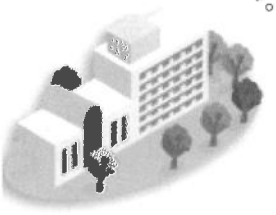
介護予防とは、主に要支援の方々に対して身体面、認知面における予防サービスを提供することで、ゆうあいビレッジでは昨年末にマシントレーニングなどのフィットネスを行う介護予防事業（フィットネスゆうあい）をスタートしました。

地域密着型サービスは、①小規模多機能居宅介護、②夜間対応型訪問介護、③地域密着型介護老人福祉施設、④地域密着型特定施設入居者生活介護、⑤認知症対応型共同生活介護、⑥認知症対応型通所介護の六つのサービスが含まれます。どれも正式名称ではわかりにくいですが現在ゆうあいビレッジには通称で言うと⑤のグループホームと⑥の認知症デイサービスがあります。

第三期事業計画は平成二十年で終了し、昨年からは第四期事業計画が始まっているのですが、前期の遅れを取り戻すべく計画に参加する事業者は完璧な事業計画を自治体に提出するように要求されました。

祐愛会では地域の介護・福祉をさらに充実させるためにこの計画に参加を希望し①と④のサービスの新設を認めてもらいました。①の小規模多機能居宅介護は二十五名の利用登録者を集め、その方々に「デイサービス」を中心に、随時の「泊まり」や「訪問」のサービスを提供する事業です。④の地域密着型特定施設入居者生活介護は、わかりやすく言うと介護付き有料老人ホームです。ある程度自立している方で時に介護が必要になる状態の方が入居されます。それぞれが最大二十五名程度の利用となります。小規模多機能は春には事業開始、有料老人ホームは本年中には建設開始となります。両施設が稼動し始めるとさらに五十名くらいの方々が住まわれたり通われたりするわけで今年は介護スタッフ増員や運営の問題で忙しくなりそうです。

老健はリハビリや在宅復帰、認知症に関する加算報酬が認められたおかげで運営的には大変助かりました。今年も中間施設としての在宅復帰、リハビリ、認知症介護に力を注ぎたいと考えております。本年もよろしくお願いいたします。



QC活動と今後の取り組み

看護部長　西村美枝子

平成二十一年度BSCの「成長と学習の視点」でQC活動を取り上げています。今年度は、指導者の育成を目的に、伊山副院長を委員長とした推進委員のメンバーで、月二回の委員会から始め、コスト削減『消耗品の適正管理』について取り組み中です。皆さまにも、次年度は部署単位、委員会やグループで活動を行って頂く計画です。QC活動と難しく考えることはありません。皆さんが今までしてきた、改善や気づきを「QCストーリー」の手順に乗せ、いろいろな視点より分析を行い、優先順位ややるべきことを見つけ、効果を見える形にする取り組みです。

QCとは質の管理(Quality Control)のことで、総合的品質管理(TQM：Total Quality Management)の活動の一つです。QC活動は、「QCストーリー」と呼ばれる手順①テーマ選定、②現状把握、③要因分析、④対策の立案、⑤対策の実施、⑥効果の確認、⑦歯止め(標準化)、⑧残された問題や課題を検討する。QCの七つ道具(いろいろな道具)という手法を使用し、自分達で問題を発見して、アセスメント、計画立案、実施、評価のPDCA(Plan、Do、Check、Action)サイクルを回すことにより問題の解決を図る活動です。QC活動の効果には、「有形の効果と無形の効果」があります。有形の効果とはコストダウンといった経済的な効果で、無形の効果とは業務改善によって職場が生き生きしてきた、モラルが向上したなどの効果のことです。

では、実際やってきた手順に沿って、お話をします。①テーマ選定までは、全員が同じ認識で参加できるよう、ディスカッションの機会を多く持ちました。今回は、決まっているようで守れておらず、周知不足や無駄が経費の増加になっている「消耗品の適正管理」に決め、活動を開始しました。②現状把握③要因分析は、KJ法や特性要因図fish bone diagramを用い、問題の整理を行いました。問題は何故起こったのか、それは何故かと根本的要因まで掘り下げ分析を行いました。④対策の立案では系統図を用いて一次二次・・と対策を出し合い、対策がより具体的手段で実行可能なレベルまで検討しました。マトリックス図を用い、効果性・現実性・重要性・持続性・協力性の視点より点数化しました。この点数をもとに緊急度と重要度より採用手段を決定しました。現在は、それぞれの担当に分れ、実施中です。実施している内容は、①規約・規定の見直しや請求と払い出し方法の取り決め、②消耗品の雑貨と文具の統一、③各部署の消耗品の雑貨と文具の定数化、④中央管理・保管場所統一、⑤委員会の発足、⑥PC管理システムの導入を目指し活動を行っています。

このQC活動の取り組みについては、皆さんに報告する機会を予定しています。次年度は多くの方が［QC活動］に参加されることを願っています。

ハワイ研修「アメリカの医療を学んで」

内科医師　朝長元輔

この秋、佐藤先生、井田人事課長、宮崎放射線部主任と四人で、ハワイ研修に行ってきました。ハワイの医療経営コンサルタントであるアンディ・ニノミヤ氏の案内で、リハビリ病院、救急病院、フィットネス施設、Women-s health center（女性専用の健康相談施設）、日帰り手術センターなどの医療施設を見学してきました。

↑ハワイ研修　アンディ・ニノミヤ氏と

ハワイの医療施設を見て強く感じた点は、ビジネスの要素が強いということです。日本でも専門医の広告規制緩和やテレビCMの放映など、コマーシャルな面が目立つようになってきていますが、ハワイでは各病院・施設が、それぞれの特色を積極的にPRし、他の施設と競争して患者・利用者を集めるよう努力します。もちろん我々の施設でも、患者満足度の向上など、サービス面での努力をしていますが、他の病院と競争しているという意識はないと思います。そもそもハワイの病院は医者が経営するのではなく、経営するのはあくまで「会社」です。病院経営のノウハウに長けた会社が病院や施設を作り、優秀な医師やスタッフを雇い、それこそ日本の「企業」と同様に業務を展開します。女性が利用しやすいような雰囲気・内装作り、人が多く集まるショッピングモールに透析施設を建てる、など、利用者を集めるための工夫をしています。もちろん日本でも、医療従事者がビジネスのことをある程度考えなくてはいけない時代に来ているのかもしれませんが、大切なのは、自分たちの病院・施設の特色をどのように打ち出していくかだと思います。

少子高齢化が進むこの社会で、どういった医療を行いたいのか。どういう医療が求められているのか。そういった法人としての大きな特色・方針を決めるのは、職員一人一人の仕事に対するビジョンだと思います。自分がどういう仕事をしたいか、どういったことを頑張りたいか。それぞれがビジョンを持ち、それをお互いに評価し、達成できるような環境作りが必要だと感じました。

↑ハワイ研修　病院見学

全日病第三十三回ハワイ研修に参加して

看護部四階病棟主任　前田美恵子

私たちは（病院から 医事課課長 中野浩輔、看護部四階病棟主任 前田恵美子、四階病棟 川原麗子、三階病棟 野中香織、三階病棟 正保瞳、救急外来 田中恵子、ゆうあいビレッジからケアコートゆうあい一階療養棟 山口健）、十月十九日から十一月三日まで全日病第三十三回ハワイ研修旅行に参加しました。ホノルル空港に降り立ったときから南国パラダイスならではの自然の美しさが目に飛び込んできました。ホテルの窓からはワイキキビーチが一望でき、広大な自然を目のあたりにすることができました。年間通して温暖な気候で、直射日光はまぶしく、しかし、直射日光の当たらないところではとても爽やかに過ごすことができました。

↑ハワイ研修参加者

その中で、「ハワイ（米国）における医療システム」についての研修を受けました。日本ではある程度保険により保障されているため安心して病院を受診することができますが、アメリカでは保険を持っていない人が多く、病気になっても病院にかかることができず、間に合わなくなって救急で受診するようになることが多いとのことでした。日本の保険はコミュニティに重点が置かれていますが、アメリカでは個人に重点が置かれており、個人の経済力によるところが多い印象を受けました。

また、アメリカでは看護師が知識と経験で提案ができるポジションに変わってきており、医師と看護師が一つのチームとして働くようになってきています。私たちが視察研修を行ったセントフランシス・リバティ病院は透析専門の病院で、その中では技術者と呼ばれるアメリカ政府より免許を与えられている者によって透析が行われ、医師による診察は月に一回ほどで患者の水分管理や家族指導なども看護師によって行われていました。家族指導を行うことにより、家庭で透析を行っており、在院日数も非常に短くなっていました。アメリカでの病院経営は医師によってではなく会社によって行われており、その会社が利益を出す為に自分の病院の特色を打ち出すようにしていました。

この研修で看護師がより高度な知識と技術を身につけ、医師とともにチーム医療に携わっていくことが今後の医療制度のあり方ではないだろうかと思いました。この研修は有意義なものでしたが、研修後のハワイでの時間も心を癒してくれる最高の時間でした。どこまでも青い海とさわやかな風、まぶしい日差しを浴びながらこれからの活力を引き出してくれるハワイの地に感謝でした。

新任Dr紹介

内科医師　大串昭彦

〔出身大学〕佐賀医科大学医学部
〔出身医局〕佐賀大学医学部附属病院
〔専門領域〕総合診療

昨年十月より再び内科でお世話になっております。佐賀大学総合診療部出身で、六年目になりました。前回後期研修が始まってすぐ、三年目の時に一度お世話になっていたこともあり、病院のシステムなどにはすぐに馴染むことができました。また、医局はじめ病院スタッフの方々には非常に親切にして頂き本当に感謝しています。今回は自らのスキルアップも含めて、消化管内視鏡、エコーはもちろんのこと、様々な診療技術を幅広く学ばせて頂ければと思います。

さて、織田病院に総合診療部出身のDr.には大先輩である西山院長、朝長先生がいらっしゃいますが、総合って一体何が専門なの？と良く聞かれることがあります。自分でもまだまだ未熟で良く分かっていませんが、内科全般の診療に携わりながら、西山院長がいつも言われるように「specialist for you !」であることが、総合医であることだと考えています。「自分の前に現れた病める人」に対して自分の力の限りを尽くしていけるようになればと思います。様々御迷惑をおかけするとは思いますが、これからも何卒宜しくお願いします。

「避難経路を抜けるとそこは・・・」

事務部長　山口久雄

屋上のガーデニング構想が始動したのは、毎週木曜日に実施される院内巡視での理事長の一言「屋上に庭を作ろう」でした。当初は、防災用の避難口を作るのが目的でしたが、建設中の開口部から屋上に降りるたびに、患者様の気持ちになり「芝の上で寝ころびたい」、「ウッドデッキでくつろぎたい」、「フェンスを移動し広いスペースを確保しよう」、「リハビリ室までウッドデッキを伸ばし歩行訓練がしたい」、「ベンチで日向ぼっこがしたい」、「リハビリ室の壁に窓を付けたい」と夢は膨らみ、十二月十九日の百周年記念の日までに完成させることができました。

この原稿が読まれる頃には明るい日差しの下、患者様・職員が一度は訪れ雄大な有明海、その向こうに広がる福岡・熊本のパノラマに癒されていることでしょう。

防災目的だった今回の工事が、閉鎖的だった四階の療養環境の改善、青空のもとでのリハビリ、屋上緑化による温暖化の防止など思いもよらない付加価値をもたらしました。

↑屋上庭園

今後、この空間を活用しミニコンサートや夜の映画鑑賞など、患者様の入院生活がよりよいものになる様皆さんアイデアをお聞かせ下さい。

成人おめでとう！

①成人を迎えた感想は？
②成人してやってみたいことは？
③自己PR

山本由希さん

ケアコートゆうあい二階療養棟　看護職

①やっと二十才なんだなぁと思う。成人になり責任の重さも増すと思うと息がつまりそうと思う事があるが、それより、やっと二十才という嬉しい気持ちがある。
②特に「これっ!!」というものはない。
③マイペースすぎるぐらいゆっくりな自分ですが、周りにおいていかれないよう頑張りたいと思います。

山本節美さん

ケアコートゆうあい事務部

①無事に成人式を迎えられて嬉しく思います。二十歳過ぎたらあっという間と聞きますので、充実した毎日を過ごしたいです。
②洋服が好きなので、お金を貯めて、ちょっと高いブランドの服を買ってみたいです。
③明るく元気に頑張ります。これからもご指導よろしくお願いします。

森田麻友さん

ケアコートゆうあい二階療養棟　介護職

①実感が湧きませんが成人を迎えられて嬉しいです。
②飲みに行きたいです!!
③一社会人として言動に責任を持ち頑張って行きたいです。

医療安全委員会便り

クレーム対策～先読みの接客～

リスクマネージャー　井手眞由美

あるデパートでの何気ない接客の会話の一言ですが、『お持ち帰りでご用意させていただいてよろしいですか？』（交通手段の先読み）、『お預かりしておきましょうか？』（お客様への気配り）これから買い物へ行かれるかもしれない。重たいワインを持っての買い物は大変であろうとの気配りである。『お帰りはあちら側の出入り口をご利用ですか？』（来店時の方向＋交通手段）お客が向かってきた方向から、帰りの方向を予測する事は、お客様を見ていなければ出来ないことである。催事売り場で、ただ単に立っているだけではなく、歩いてこられ、興味を示され、立ち止まられどのワインが気になっておられるのか、お声かけをするタイミングをみて、ただ単に押し売りするだけではなく、見る観点によっていろんな事を一瞬で判断しなければいけない。『では、お出口の近くの酒販コーナーでお預かりしておきますので、お帰りの際お立ち寄りくださいませ』。あるワインソムリエのデパートでの話ですが、お客様に対し先を見越した接客と、お客様の気持ちを、その身になった接客、その様なことを一瞬の判断で出来る事、これがホスピタリティーではないだろうか。

病院においても必要なスキルだと思います。「どうすれば患者様に満足していただけるか」を考えることだと思います。(*^_^*)

難しい事？？そんな事はないと思います。手始めは自分がされて嫌な事!!それを置き換えればいいだけのことではないでしょうか。そして、一番は『笑顔』。それだけで、患者様は十分満足されると思います。ただし、作り笑顔ではなく、心からの笑顔で(^_^)v☆。その為には、普段から鏡を見て、自分の笑顔と向き合って下さい。(^_^)v☆『今日も笑えてるかな(*^_^*)』

病院内ではいろいろなクレームや苦情が発生します。医療ミスや過誤というよりも、「言葉遣いや態度・対応が悪い」など接遇に関することが増えてきていると思います。ですからクレーム対策のポイントは、苦情につながらない対応をすること、先読みの接客です。クレームや苦情を感じさせないホスピタリティーが重要だと思います。今年も皆さん『日本一の気配り病院』の職員としてよろしくお願いいたします。

『無料クーポン券で乳がん検診を受けましょう。』

健康管理センター課長　土井弥生

一九八一年以来、日本人の死因のトップとなっている「がん」。生涯のうちにがんになる確率は、男性の二人に一人、女性の三人に一人と言われています。しかし、最近は医学の進歩で「治るがん」も増えています。特に女性特有の「乳がん」は、早期発見・早期治療で治る確率が高いがんです。早期に発見するためにはがん検診を受けることが有効ですが、検診受診率は二〇％程度と低いのが現状です。そこで、平成二十一年度の補正予算によって一定の年齢に達した女性に乳がん検診の無料クーポン券が配布されることになり、全国の市町では、一定年齢に達した女性を対象に乳がん検診が無料で受けられるクーポン券を配布しています。当院でも、クーポンを利用してすでに一七〇名の方が検診を受けられています。

お手元にクーポン券をお持ちで検診が済まれてない方は、有効期限がせまっておりますので、早めのご予約をお勧めします。

乳がん検診無料クーポンの配布対象者

年齢	生年月日
40 歳	昭和 43（1968）年 4 月 2 日～昭和 44（1969）年 4 月 1 日
45 歳	昭和 38（1963）年 4 月 2 日～昭和 39（1964）年 4 月 1 日
50 歳	昭和 33（1958）年 4 月 2 日～昭和 34（1959）年 4 月 1 日
55 歳	昭和 28（1953）年 4 月 2 日～昭和 29（1954）年 4 月 1 日
60 歳	昭和 23（1948）年 4 月 2 日～昭和 24（1949）年 4 月 1 日

《資格要件》平成 21 年 6 月 30 日現在、住民登録をされている市町
＊詳しくは、お住まいの市町にお問い合わせください。

《有効期限》平成 22 年 2 月 28 日まで
（鹿島市・武雄市・白石町・江北町・大町町・太良町）

↑乳がん検診無料クーポン（見本）

インドネシアから看護師候補者着任

人事課　井田光寛

日本とインドネシアの経済連携協定（EPA）でインドネシアから二回目の受入れとなりました。今回着任されたのはアブデリナさんとエスタさん。六カ月間の短い日本語研修ですが大変日本語の上達が早く感心している次第です。二人とも母国で三年間の看護師経験がありますが、日本での看護技術や生活環境に慣れるのは大変だと思いますのでスタッフのみなさん温かく見守ってください。

アブデリナさんエスタさん、わからないことがあったらいつでもクエスチョンを投げかけてくださいね。先輩のイナさんリナさんよろしくお願いします。慣れてきたら英語のレッスンお願いしますね。

エスタさん

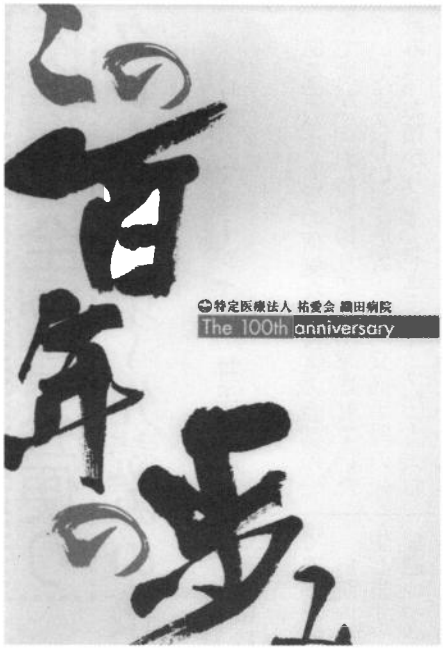
アブデリナさん

百周年記念事業

百周年記念事業企画委員　宮崎公志

当病院が現在地である高津原に移転し百年となり、昨年初めに理事長より記念事業を行うことが表明されました。百周年記念事業企画会議が召集され、記念祝賀会、プロモーションビデオ作成、記念誌発行の三つの事業を行うこととなり、さっそくそれぞれのワーキンググループが結成されました。プロモーションビデオは、織田理事長を中心に、織田病院の歴史を紹介した「百年の歩み」と法人紹介の「開かれた病院を目指して」の二部作が制作されました。前回作成されたプロモーションビデオを上回るすばらしい作品に仕上がっています。

記念誌は、西山院長を中心に『ゆうあい報おだぴたる』編集担当者である広報委員会のメンバーで〝未来志向の記念誌〟というコンセプトのもとに制作が行われました。記念誌は三つのパートから構成されています。まずこの百年のしっかりとした俯瞰（今まで病院を支えてくださった職員を紹介する中で職員に心から感謝すること、今に繋がる病院の変遷を述べること）、現在の病院の在りよう（各部門・各委員会などの取り組み・活動の紹介、メディアにて紹介された記事、学会発表などの業績）、そしてゆうあいビレッジなどの関連施設の紹介です。記事の内容はさることながら、写真を多用し、職員が生き生きと楽しく仕事をしているさまを笑顔とともに読者に届けたいと思い、いろいろと工夫を凝らした記念誌となっています。



↑ 記念誌「この百年の歩み」

記念祝賀会「～この地に百年～特定医療法人祐愛会織田病院記念式典」は、十二月十九日（土）に開催されました。記念式典では鹿島市長の桑原允彦様と佐賀県医師会病院部会長である古賀良行様より祝辞を賜りました。次に織田理事長より「この百年の歩み」と題して記念講演が行われました。明治時代の織田病院や現在地に移転した当時の写真や歴代の職員の紹介、織田病院の歩みなどが紹介されました。また講演の最後には完成したプロモーションビデオの紹介もありました。そして最後に感謝状の贈呈式が行われ、永年勤続二十年、永年勤続三十年、功労賞、特別功労賞と四部門で感謝状が贈呈されました。永年勤続二十年が十三名、永年勤続三十年が七名、功労賞三名、特別功労賞八名、合計三十一名に感謝状が贈呈されました。

↑ 百周年記念式典　感謝状贈呈

この三つの百周年記念事業を通して思うことは、病院が今日あるのはこれまで病院を支えてこられた医師・看護師・事務職を始め多くの職員のおかげであるということです。それをあらためて認識することができました。そしてまたこの記念事業を通し、職員一人一人が自分自身と病院に対して自信と誇りを持つようになったのではないかと思います。

最後に百周年事業にご協力下さった職員の皆様、写真ビデオ撮影にご協力下さったOB・OGの皆様および関係者の方に御礼申し上げます。

↑ 百周年記念式典

学会（研究会）・講演（講義）・論文発表（平成２１年）

【学会（研究会）発表】

◎医学関係◎

・第32回嚥下医学会(2月6日　大阪市)：清原英之、梅崎敏郎、澤津橋基広、織田正道、小宗静男他「嚥下内視鏡検査における嚥下性肺炎のリスク評価」

・第23回総合診療ケースカンファレンス（5月20日　マリトピア）：角田光子「鼠径部腫瘤を主訴に来院した1症例」／朝長元輔「結核性脊椎炎の2症例」

・第285回日本内科学会九州地方地方会（5月30日　産業医科大学）：坂田泰志、中野良、江口仁、角田光子、力武修一、朝長元輔、井手康史、松永圭司、西山雅則「Lansoprazoleによるcollagenous colitis(microscopic colitis)の1例」／朝長元輔、坂田泰志、中野良、江口仁、角田光子、力武修一、井手康史、松永圭司、西山雅則「内視鏡的切除術を施行した多発性直腸カルチノイドの1例」

・第87回日本消化器内視鏡学会九州支部例会（6月19日　ニューオータニ博多）：中野良、坂田泰志、江口仁、角田光子、井手康史、朝長元輔、松永圭司、西山雅則「Lansoprazoleによるcollagenous colitisの1例」／江口仁、坂田泰志、中野良、角田光子、井手康史、朝長元輔、松永圭司、西山雅則「咽頭痛のみで消化管症状を呈さなかったクローン病の1例」

・第51回日本老年医学会学術集会（6月19日　パシフィコ横浜）：鐘ケ江寿美子、市丸徳美、リチャードフレミング、小泉俊三「日本語版Care Planning Assessment Tool (J-CPAT)ソフトウェアの開発と高齢者施設における有用性」

・第71回耳鼻咽喉科臨床学会（7月2日～3日　旭川市）：清原英之、澤津橋基広、柿添亜矢、髙岩一貴、織田正道「鼻副鼻腔に発生したosteoblastomaの1例」／澤津橋基広、清原英之、鷲崎政治、柿添亜矢、織田正道「術後性上顎嚢胞に対する内視鏡下鼻内手術96症例の検討」

・第286回日本内科学会九州地方会（8月22日鹿児島大学鶴陵会館）：角田光子、坂田泰志、江口仁、朝長元輔、井手康史、松永圭司、西山雅則「十二指腸傍乳頭憩室出血にて内視鏡下クリップ術が成功した1例」

・平成21年第2回佐賀県西部消化器勉強会（8月27日　武雄市医師会センター）：坂田泰志「胃粘膜下腫瘍様隆起を呈した腎動脈瘤の1例」／坂田泰志「巨大な総胆管結石による化膿性胆管炎にステント留置が奏効した1例」

・第2回佐賀ＰＤＮセミナー（8月29日　唐津市相知交流文化センター「サライ」）：松永圭司「当院におけるＰＥＧの現状」

・進行大腸癌治療シンポジウムーアバスチンの現状と今後―（9月4日　マリトピア）：佐藤建、篠崎由賀里、伊山明宏「S状結腸癌術後腹壁再発に対してmFOLFOX6＋アバスチンが奏効した一例」

・第32回佐賀救急医学会（9月12日　炎の博記念堂　文化ホール）：朝長元輔、江口仁、角田光子、井手康史、松永圭司、福野裕次、坂田泰志、西山雅則「当院における精神科救急診療の現状」

・第96回日本耳鼻咽喉科学会佐賀県地方部会（12月5日　佐賀市）：髙岩一貴、清原英之、柿添亜矢、織田正道「当科における耳科手術統計」

◎看護・介護・リハ・放射線・福祉・栄養食事・事務部・健診関係◎

・第8回医療マネジメント学会佐賀地方会（2月7日　佐賀市アバンセ）：牛島久美子、佐藤建、森久陽一郎、江口仁、前川ゆみ子「NSTと褥瘡対策チームによる取り組み～低栄養・褥瘡改善を目指して」／井手眞由美、井手康史、澤津橋基広、西村美枝子、西山雅則「当院における新型インフルエンザ対策」／河本健太郎、野中智子、吉村早苗、原崎真由美、井手眞由美、西村美枝子、伊山明宏「注射エラー防止の取り組み～H19年度とH20年度の比較」

・第11回佐賀心臓リハビリテーションセミナー（4月17日　マリトピア）：一ノ瀬英治「当院における心臓リハビリテーションの現状について」

・全国認知症グループホーム大会2009年フォーラムin愛知（5月16日　名古屋国際会議場）：峯みちる、山下祐子、北川英俊、下田尚子「笑顔でおだやか・その人らしい生活を目指して～精神的サポートの向上に取り組んで～」

・平成21年度佐賀県放射線技師会学術大会（6月20日　龍登園）：坂田善和「医用画像表示モニタの品質管理を実施して」

・蓮根の会（研修会発表）（8月21日　エイブル）：中島隆貴「糖尿病患者への取り組み」／牛島久美子「管理栄養士の糖尿病患者への関わり～料理教室～」

・第56回栄養改善学会学術総会（9月4日　札幌コンベンションセンター）：牛島久美子「褥瘡患者における管理栄養士の役割」

・第10回日本認知症ケア学会（10月31日　東京国際フォーラム）：光武耕治、北川英俊、下田尚子、内田智弘「認知症疑似体験から学んだこと～アンケートから見た効果及び課題～」

・第7回医療法人天心堂志田病院研究発表会（11月7日　和多屋別荘）：田中寛子、川島裕子、山口佳子、田島まり子、江口富士子、西村美枝子「当院における退院支援の取り組み一終末期患者の退院支援事例を通してー」

・第51回全日本病院学会鹿児島大会（11月21日　鹿児島市城山観光ホテル）：川島裕子、田中寛子、山口佳子、田島まり子、江口富士子、西村美枝子「当院における退院支援の取り組み一終末期患者の退院支援事例を通してー」／井手眞由美、西村美枝子、伊山明宏、西山雅則「ＫＹＴクイズを用いた医療安全教育の現状」／村吉英樹、中野宏亮、中村知弘、中村典弘「未収金ゼロへの挑戦」／土井弥生、西山雅則、矢川愛「特定保健指導の効果的な取り組みについての一考察」／矢川愛、西山雅則、土井弥生「ウォーキング継続による健診結果の改善について」

【講演】

◎医学関係◎

・ジョイフル漢方サークル2008研究会（1月31日　オリエンタルホテル広島）：柿添亜矢「頭頸部領域の不定愁訴に対する漢方治療―頭痛・めまい・咽喉頭異常感症・肩こりー」

・第21回佐賀大学東洋医学研究会（2月10日　佐賀大学医学部）：柿添亜矢「柴胡剤が奏功した三叉神経痛の1例～頭痛・耳鳴・めまいなど～」

・第23回鹿島市みんなの集い（3月8日　鹿島市民会館）：伊山明宏「医学講座～あなたの乳がんにかかる確率教えます」

・奈良漢方セミナー（7月25日　奈良市春日荘）：柿添亜矢「頭頸部領域の不定愁訴に対する漢方療法」

・第20回佐賀小児アレルギー研究会（9月17日　佐賀）：柿添亜矢「小児に対する漢方治療」

・鹿島機械健康講話（10月6日　鹿島機械講堂）：西山雅則「新型インフルエンザについて」

・鹿島商工会議所医学講演会（10月16日　鹿島商工会館）：伊山明宏「あなたの乳がんにかかる確率はどれくらい？」

・佐賀県商工会議所女性会合同研修会（11月19日　祐徳稲荷神社参集殿）：伊山明宏「あなたの乳がんにかかる確率教えます～癌にかかったときに心掛けてほしいこと～」

・嬉野漢方のつどい（12月3日嬉野大正屋）：柿添亜矢「舌炎に対する清熱補気湯の使用経験」

◎看護・介護・福祉・栄養食事・リハ・健診関係◎

・第13期　船井幸雄「経営道場」(1月17日　織田病院)：田島まり子「退院支援の実践報告」

・第8回佐賀支部学術集会日本医療マネジメント学会（2月7日アバンセ）：牛島久美子、佐藤建、森久陽一郎、江口仁、前川ゆみ子「NSTと褥瘡チームによる取り組み　～低栄養・褥瘡改善を目指して～」

・長崎済生会病院研修会（3月6日　長崎済生会病院）：田島まり子「当院における退院支援の取り組み」

・第11回佐賀心臓リハビリテーションセミナー（4月17日　マリトピア）：一ノ瀬英治「佐賀県下における心臓リハビリテーションの取り組みと現状」

・佐田病院研修会（5月15日　福岡市佐田病院）：田島まり子「当院における退院支援の取り組み」

・苗穂病院研修会（6月12日　札幌市東苗穂病院）：田島まり子「当院における退院支援」

・ケアマネジメント学会ｉｎ佐賀（7月4日　マリトピア）：田島まり子「医療機関と介護支援専門員の連携」

・鳥栖地域リハビリテーション研修会（10月22日　鳥栖市緑正館）：田島まり子「介護保険における地域連携」

・光風荘職員健康講話（光風荘リハビリ室　12月9日）：土井弥生「検診後の健康管理について」

【講義】

◎医学関係◎

・鹿島藤津地区医師会看護高等専修学校講義：織田正道「人体のしくみ働き―耳鼻咽喉科」(2月15・22日、3月1日）／織田洋子「人体のしくみ働き―皮膚科」(4月7・14日)

・佐賀県立看護学院保健学科講義（6月9日）：西山雅則「地域保健と高齢者保健指導Ｉ」

・佐賀大学医学部医学科4年生（11月24日）：西山雅則「介護と在宅医療・地域医療連携」

◎看護・介護・福祉・リハ関係◎

・佐賀県産業技術学院講義（2月26日、3月6日、7月23日、8月7日）：江口利信．老人・障害者福祉論「高齢者・障害者への保健・医療・福祉の総合的援助」

・介護予防研修会（3月18日）：一ノ瀬英治「介護予防論について」

・鹿島藤津地区医師会看護高等専修学校講義(4月7・14日)：江口利信「保健・医療・福祉のしくみ」

・嬉野医療センター附属看護学校講義（6月10・24日、7月1・8日）：小森ヒロ子「在宅看護論」

・介護予防支援事業担当者研修会（6月16日、7月21日）：下田尚子「高齢者の認知症について」

・リハビリテーション介護予防研修会（8月23日）：一ノ瀬英治「トランスファーテクニック理論と福祉用具の選び方」

・佐賀県社会福祉士会キャリアアップ支援基礎研修講義（12月4日）：神代修「ケアプランとサービス計画」

【論文・著書】

・西山雅則共訳、小泉俊三監訳：１０分間診断マニュアル第２版　症状と徴候―時間に追われる日々の診療のために　メディカル・サイエンス・インターナショナル,2009.

・柿添亜矢：消化性潰瘍治療薬不応の難治性咽喉頭酸逆流症に六君子湯が奏功した1症例―Ｆスケールによる評価― 漢方医学,33(2),353,2009.

・田島まり子：「重度障害を持つ患者への退院支援・退院調整」～病棟から始める退院支援・退院調整の実践事例174―191,日本看護協会出版会,2009.

ふるさと探訪

『唐津天満宮おんじゃおんじゃ』

佐賀県唐津市・唐津天満宮では、一月七日に無病息災を祈願する「おんじゃおんじゃ祭り」が開かれました。高さ十メートルの大松明と共に、正月祭りの門松やしめ縄を燃やし今年一年の無事を祈ります。「おんじゃ」とは「鬼じゃ」という意味で、邪気を払う掛け声として使われます。大松明の炎は最大十五mにもなり、参拝客は竹のはじける音や炎に拍手し、歓声をあげていました。

参堂ではくじ引きを行っており、皆さん今年初めの運試しということで、気合をいれて引いていました。お米や商品券などさまざまなものが当たっていたようです。

松明が倒れた後の燃え木は、火事の防止にご利益があるといわれており、たくさんの方が持ち帰っていました。伝統ある祭り行事ですので、来年はぜひ皆さんも参加してみて下さい。

（健康管理センター　松本美由紀）

ブックエンド

【病院図書室】

・「神様のカルテ」　夏川草介著　小学館　二〇〇九

神の手を持つ医者はいなくても、この病院では奇蹟が起きる。

この本は長野県の病院で地域医療に従事する医師が書いた小説です。

主人公の栗原一止は信州松本平の基幹病院・本庄病院で働く五年目の内科医です。彼が勤務する病院は「二十四時間、三六五日対応」の病院で、常に医師不足で専門外の分野を診療したり、夜中に病院からの呼び出しに応ずることは日常茶飯事。そんな中で、大学病院からの誘いがあり最先端の医療を学びたいという思いが生じますが、また一方で大病院で「手遅れ」と見放された患者さんたちと精いっぱい向き合いたいという気持ちもあり、葛藤しつつ患者さんに向き合っていこうとする医師の姿が描かれています。

登場人物や現場の様子がどことなく織田病院に重なるところがあって、話の中にすっぽり入りこんでしまいました。死を前にした患者とそれを看取る周囲の人々、医師、看護師、身寄りの人それぞれに物語があり、懸命に生きていることを温かい目線を通して感じさせてくれます。苦悩しながらも人生をまっすぐ生きていこうとする主人公の姿にとても元気をもらい、患者さんを思いやる心の大切さをあらためて思い起こさせてくれました。

読み終わると温かい気持ちになって、前をむいて生きていこうと思える一冊です。

（薬剤部　山田のぞみ）

新着図書

・押谷仁、虫明英樹著「新型インフルエンザはなぜ恐ろしいのか」　NHK出版生活人新書　二〇〇九

・レナード・L・ベリー他著、古川奈々子訳「すべてのサービスは患者のために―伝説の医療機関《メイヨー・クリニック》に学ぶサービスの核心」　日本出版貿易KK　二〇〇九

編集後記

皆様、新年明けましておめでとうございます。去年は病院では現在地に移転して百年という節目を迎え、百周年記念事業が開催されました。また、経済新聞には医療機能評価での全国一位という高得点で掲載されました。ゆうあいビレッジでは十二月より介護予防通所リハビリテーション「フィットネス」が開設され、祐愛会はさらに地域から信頼を得ることができた年となりました。

平成二十二年度は「夢と希望を抱き、新たな未来に向けてのスタートの年に」をテーマに法人方針が示されました。法人各部署がシームレスに連携し、地域のニーズを満たせるよう、スタッフ一同目標に向かって頑張っていきましょう。

去年は新型インフルエンザが蔓延し対応に追われました。まだまだ寒い日々が続いていますが、マスク・うがい・手洗いを十分に行い体調管理に気をつけ、今年も法人及び皆さんにとってすばらしい一年となるよう協力していきましょう。

（看護部三階病棟主任　谷口繁樹）